

1

2004年

組合広報

NO. 445

よろこばれ 期待され 魅力ある

 東京都鍍金工業組合
 東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

年頭挨拶	環境プロジェクトの立上げで力強い第一歩を 理事長 大村功作	1
	各支部新年のページ	3
年頭所感	規制強化への対応を 常任理事 半田 實	15
	東京のめっき工場の足元を確かなものに・理事 石川 進造	16
	今が一番のがんばりどころ 城東支部長 遠藤 清孝	18
	厳しい財政運営を 連合青年部会長 深田 稔	19
	今こそ組合が一致団結して 城北青年部会長 田中 貴嗣	20
	今年も前向きに 葛飾青年部会長 太田 幸一	20
	環境省のパブリック・コメント 十日会会長 菊地 利博	21
あなたの予定表	2 月の環研・協組集荷日程ほか	22
	理事長日誌、正副理事長都庁へ新年挨拶回り	23
	東鍍工組・公防協組新年賀詞交歓会	24
	広報新春座談会「正副理事長 今年の組合運営を語る」	26
	訓練校第 35 期訓練生募集	29
	神戸徳蔵氏瑞宝小綬章受章祝賀会	30
	訓練校 2 月授業案内	33
	新年名刺広告	34
	訃報ほか	43
随想	支那そば (株)トキン 伏原 暉幸	44
	矛盾 梁山泊	45
つま恋坂	こんなもんか 小島一浩 (足立支部)	46
支部通信	城南支部、足立支部、城北青年部会	47
	都内中小企業景況自由意見	50

「環境プロジェクト」の立ち上げで 力強い第一歩を

東京都鍍金工業組合
理事長 大村 功作



新年明けましておめでとうございます。平成 16 年の新春にあたり、皆様様に謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を顧みますと、我が国経済は、景気指標の一部に、幾分、持ち直しの動きが見られましたが、総じて景気は、低迷したまま推移いたしました。

また、経済動向は、株価の最安値や高水準の完全失業率、個人消費の伸び悩みなどに、金融機関の不良債権処理問題による金融システム不安の拡がりなども加わり、深刻なデフレ状況から、脱出できないまま、新しい年を迎えることになりました。

新年を迎え、景気の先行きには、いまだ不透明感が漂っておりますが、政府は景気回復をめざし、経済再生に向けた構造改革や規制緩和の推進に、全力で取り組もうとしていますが、私達は、中小企業に対しましても、早急かつ具体的な支援策が講じられ、明るい展望が開かれることを、政府に強く期待しています。

今、私達、めっき業界が抱える最大の課題は、不況及びデフレ対策であり、また、産業空洞化によるめっき需要の激減対策であり、土壤汚染対策法に象徴される環境規制問題への対応であると思います。

具体的には、まず、東京都環境確保条例(平成 13 年 10 月 1 日「化学物質の適正管理」)施行では、東京都が有害物質を取り扱う事業所に、対象となる有害物質の取扱量の報告を義務付けるなど、本条例全般にわたり、国の定める P R T R 法より、一層厳しい内容となっています。私達は、東京都との度重なる話し合いの中で、施行にかかわる運用面での特別の配慮を求めてまいりました。その結果、一定の前進はあるものの、いまだ不十分であることから、今後も、一層、要請の実現に努力してまいります。

つぎに、土壤汚染対策法に関しましては、事業所への各種規制や義務付けなど、事業者の責務が新たに規定され、汚染土壌の浄化等の処理技術の開発が遅々として進まないなかで、企業の存続に関わる深刻な問題に発展しようとしています。私達は、業界・企業の実情に即した経済的かつ簡易な処理技術の確立を求めて、東京都産業技術研究所の技術指導やノウハウをあおぎ、また、連携強化に一層努めるなかで、直面する技術的課題に取り組んでいます。今後、国や東京都に対し、財政措置を含めた特別な配慮や技術開発を含めた一層の行政支援を要請していく所存です。

さらに、排水規制に関しましては、ホウ素、フッ素等の現行暫定排水基準値が、今年 6 月末には、適用期限を迎えますので、暫定排水基準値の延長や日間平均排水量 50m³ 未満の小規模事業所への排水基準値の適用除外の措置などについて、下水道を所管している国土交通省や環境省、または、東京都下水道局への働きかけを、強めてまいりたいと思ってい

ます。

環境保全、特に、人の生命や健康の保持・増進につきまして、時代の今日的テーマでもありますので、法や条例、そのものの見直しを求めることは、現実には難しいことであると思います。私達は、行政に対し、業界や企業の実情に十分配慮された制度や仕組みとなりますよう、法律や条例施行に関わる運用面について、業界として具体的提案を積極的に行い、行政の特別な措置が講じられますよう、国や東京都などに、業界をあげて、強力に、要請運動を展開してまいりたいと考えています。

その実現を図るため、昨年11月5日には、当組合独自の運動母体として、「環境プロジェクト」を立ち上げ、組合員の皆様のご支援のもと、昨今の津波のように押し寄せてくる環境規制問題に、真正面から取り組み、また、真剣な検討を重ねるなかで、具体的提案を機会あるごとに行い、時代に即した新たな組合活動の一端を内外に強くアピールしてまいりたいと考えました。

「環境プロジェクト」から、発信される要請運動の展開の方向は、今後、業界や企業が、生き残りにかける新たな組合の姿勢や戦略と、重なり合うものです。まだ、立ち上げてから、1ヶ月余の期間ではありますが、総勢8名の委員での、数回の会議、要請運動の中で、組合が直面する問題の把握、その対策の筋道と運動の方法、関係機関等への要請行動、運動展開の理論構築など、行動計画を策定し、要請活動を運動としてスタートさせました。

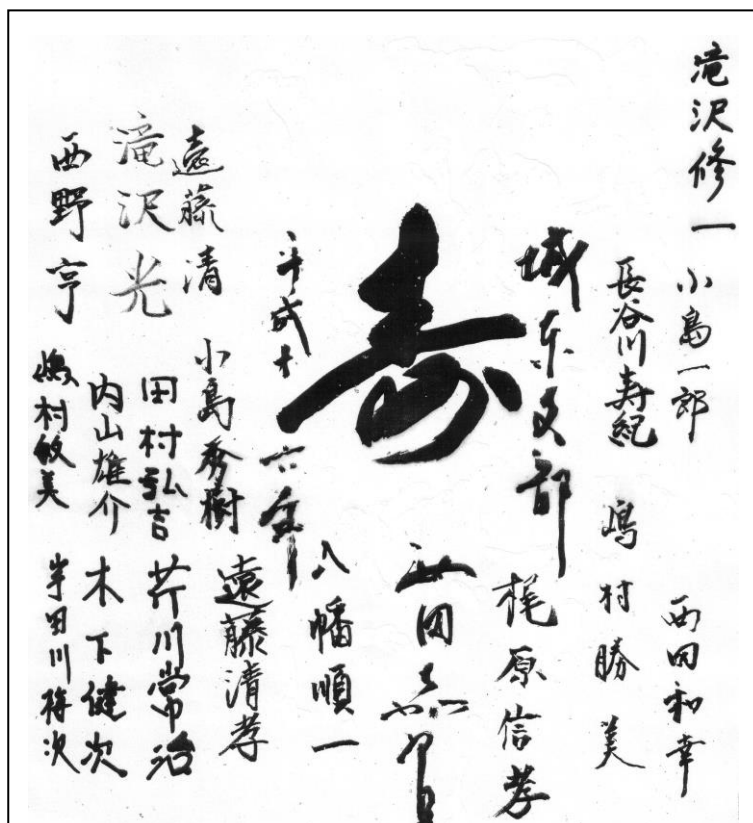
新年を迎え、決意を新たに、当組合の運営方針の4つの柱、即ち、環境規制問題への対応、人材の育成、新技術の開発と製品の付加価値化、情報化の推進を、組合の主要事業として位置づけ、精力的に推進させ、希望に燃えた輝かしい年にしたいと考えています。

今年は、「困難な課題に、果敢に挑戦する組合」をめざして、組合執行部及び組合員の皆様が一丸となって努力し、めっき業界の発展のために、貢献してまいる所存でございます。

私は、常々、組合運営に際し、“初心に返って、事にあたることが、大切である”と考えています。新しい年、組合執行部一同は、組合員の皆様及び組合事務局職員とともに、組合諸事業の推進に、全力で取り組んでまいりますので、皆様には、なお、一層のご支援、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

年頭にあたり、組合員の皆様のご多幸とご健勝を、心より、お祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年 城東支部



(第5回産業とさめきフェア展示品)

謹賀新年 城西支部



(株)小林鍍金工場

(株)田中鍍金工場

清水鍍金工業

(有)しのぶ鍍金工業

日新電化(株)

(株)佐藤鍍金工業所

旭鍍金工業(株)

(有)二幸鍍金工業所

(株)青木メタル

(株)旭電化研究所

(有)成増メッキ工業所

(株)シルベニア

日本ニュークローム(株)

光鍍金工業(株)

(有)井上プレイティング

(株)産究化学工業

(有)大村鍍金工業所

(株)日本エムケー

(有)清水鍍金工場

(株)瑞 光

(有)高野鍍金工業所

(有)藤野鍍金工場

(有)高橋鍍金工業所

(有)元井鍍金工場

高松電鍍工業(株)

藤岡鍍研工業(株)

(有)東研電化工業所

(有)正栄工業

菊地鍍金工業

(株)協和

(株)エスケイエス

(株)清化学

飯島鍍金工業(有)

(株)加藤鍍金工場

(資)渡辺鍍金研究所

三共鍍金(株)

(株)三 正

(株)ジンカートセンター

和光鍍金(有)

(有)山紅

小豆沢技研工業(株)

(有)板橋鍍金工業所

武荻鍍金(株)

(有)柏村防錆研究所

日硬クローム工業(株)

高橋メッキ工業(有)

日本システムプレイティ

ング(株)

協青メッキ工業所

市村鍍研工業所

(有)三 和

(有)協栄電化工業所

(有)常盤鍍金工業所

第一化学工業(株)

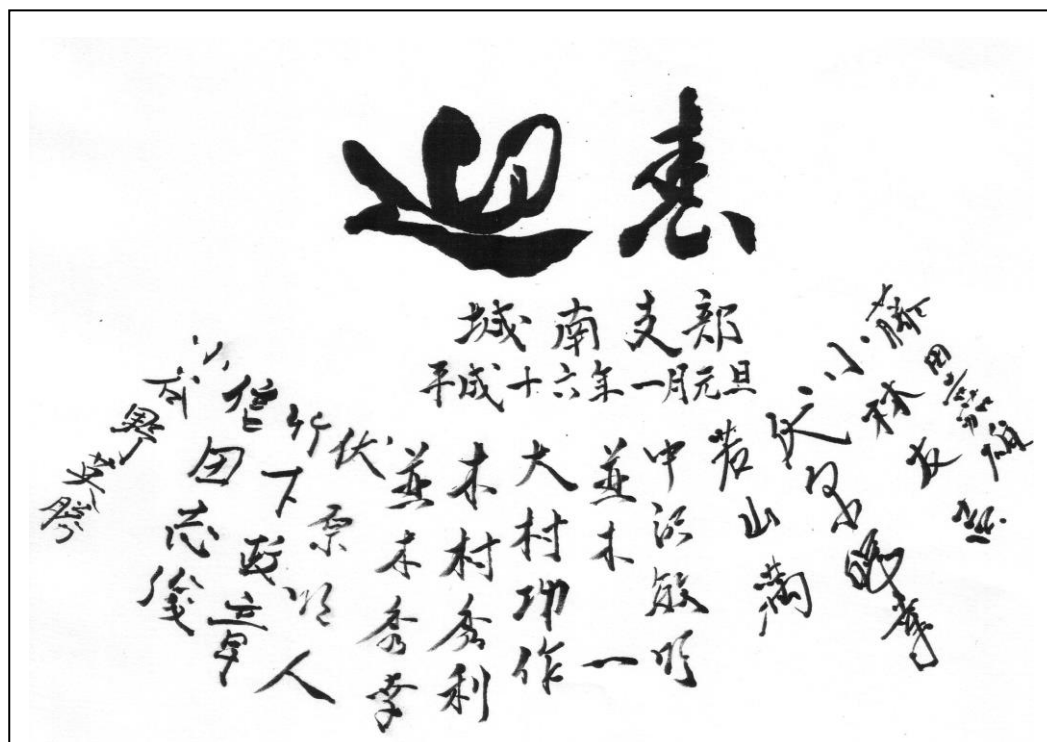
(株)コーケン

(有)岩本メッキ

(有)双葉鍍金材

(株)S.Tエンジニアリング

謹賀新年 城南支部



(城南支部忘年会 03.12.22)

謹賀新年 品川支部



(品川支部家族忘年会 03.11.29)

謹賀新年 大田支部

小山淳 渡辺正巳 小原貞孝 中西一善 小林忠司 土屋富夫 石川貞行 川合彰 田村洋 中山靖治 林田武彦 森野達男 志田篤紀
 大田支部 二〇〇四年
 賀正
 勝又正博 小口順一郎 宮川容子 有藤慶明 竹村健一 近藤忠夫 大沢俊孝 葛西康二 金子俊明 川上洋一 池田潤一 佐藤富幸 清水弘 吉川進 八内島正徳 杉江孝夫 志田晴彦 杉山藤夫 江ノ口一力



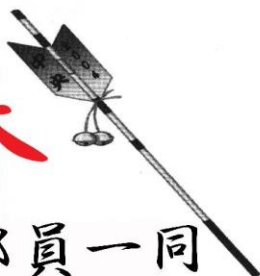
(大田支部忘年会 03.12.12)

謹賀新年 城北支部



謹賀新年 中央支部

迎春



中央支部員一同

小林保義

健康オー

安足商員

鈴木(株) 鈴木利夫

健康第一 木下好雄

活力 佐野正親

日々努力 田中俊一

継続こそ力也 新井富保

今年こそ元気を 堀米清

夢一路 徳竹信夫

健やかに 野村健

さらなる品質の向上! 中村建輝

忍耐 今野吉三

年の瀬の望みの後の春の空 山田邦明

社内、全員健康増進、鈴木宏政

今年は戦争のない年でありますように、小嶋 振部

NO1 じゃく ONLY 1 を目指す 斎藤功

組合員一同今年も頑張ろう、小倉 秀雄

あけましておめでとう 石屋 鍍金工場

のんびりのんびり確実! 花川和夫

健康で上昇気流に乗りまよう 伊藤孝徳

がんばろう!! 努力・根情・義理・人情 堀江 清

友よ今年もうまし酒を心ゆくまで 東松 国雄

一陽来福 内山弘一

確! 勝美 日進月歩頑張ります

今年の干支にちなみ活動はう 石井 徹夫

みんなで、めっき屋のヒーローを目指そう! 横井紀一

健康第一 元気な会社 長谷川 健治

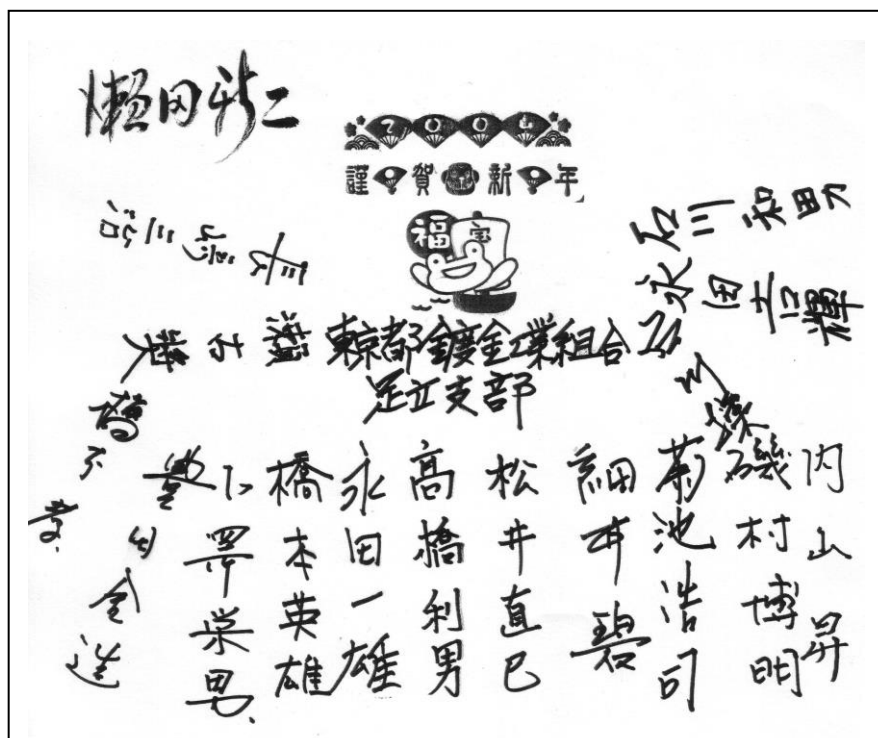
人生、七転八起で頑張ろう! 岡田定夫

今年は去年の我に勝つ 武藤 博

知識をたのいにして 知恵を出し 一年間ガンバリましょう。下平 誠

株式、債券よ上れ!! 間部 健太郎

謹賀新年 足立支部



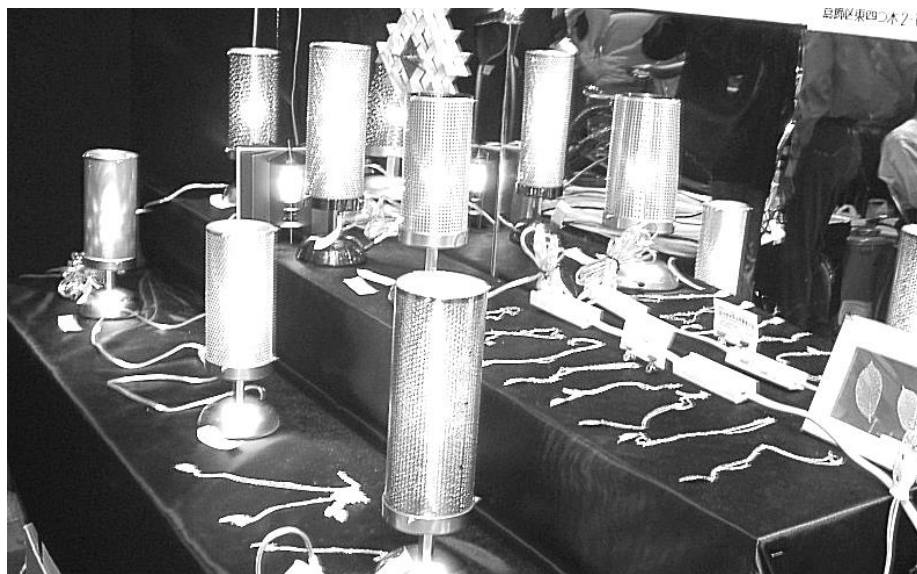
あだち地場工業製品フェア
(03.12.12/於足立区役所庁舎ホール)

写真右:左から磯村副支部長、小澤常任
理事、永田支部長、豊田会計監査



写真左:上段左から石川総務、
橋本副支部長、永田顧問、石川
副支部長、小澤常任理事
下段左から細井副支部長、永田
支部長

謹賀新年 葛飾支部



(第 19 回葛飾区産業フェア展示品 03.10.17～19)

謹賀新年 向島支部



謹賀新年 本所支部



今年も宜しく

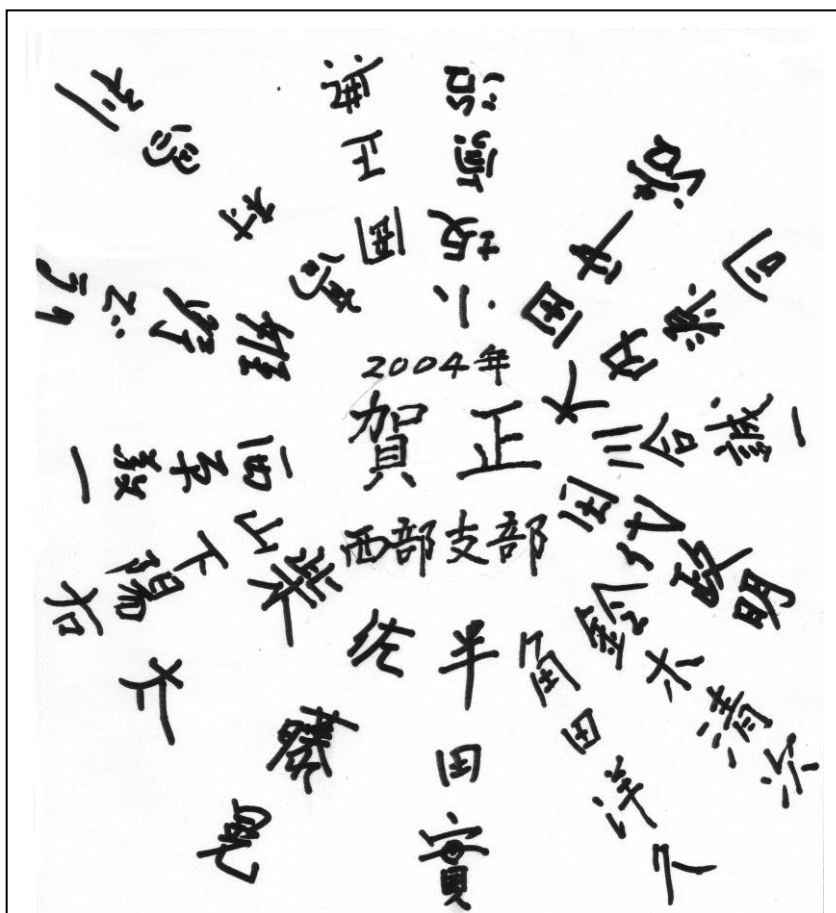
御願いたします。

全支部員一丸となって

この困難な状況を

打開していきます。

謹賀新年 西部支部



明けましておめでとうございます。

西部支部長 西原 敬一



景気の行方に期待感を募らせてから、ずいぶんと久しい。今年こそはその高まりを現実のものとして皆で分かち合いたいものです。

次に来るものをじっと見据えて、考え、行動し、猿のような機敏な動きで勝ち残りの輪を広げましょう。

規制強化への対応を

常任理事 半田 實



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては良き新年をお迎えになられた事を謹んでお慶び申し上げます。

昨年は国内外で多くの事件が発生した年でした。海外では、イラク戦争、SARS、拉致問題などを通じ、平和とは何かと問われた一年であったのではないのでしょうか。国内では、経済の回復の兆しが現れはじめたとの事ですが、実感としては相変わらず厳しさが続いております。

めっき業界においては、土壤汚染対策法が平成15年2月15日施行されました。そして今年6月30日には、ホウ素(またその化合物)とフッ素(またその化合物)の暫定基準の適用期間が終了となっています。また、亜鉛の規制も水生生物の保護から今迄以上に厳しい基準になると予測されます。そして最近の大きな問題として、6価のクロメートが発ガン性の恐れから使用が規制され、3価のクロメートの使用が推奨されますが、その3価のクロメートは自己修復性がほとんどありません。このことにより。組み立て時に工具等でめっき加工品にキズを付けてしまうと耐食性が6価のクロメートに比べかなり劣ってしまいます。

そこで昨年に亜鉛めっき部会で講習会を開催致しましたが、自動車部品工業会での承認が出ないとの話題があがりました。しかし実際には、某自動車メーカーでは書類審査及びサンプルに合格をすれば、3価クロメート使用の方向で16年度より動き始めるとの事です。

私たちの仕事は、化学物質を使用するため環境問題から切り離す事も出来ず今後益々規制が厳しくなってくると思われます。

以上の事柄などの問題解決のために、この1年皆様のご支援、ご協力、そして亜鉛めっき部会へのご加入をお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝と発展を心よりお祈り申し上げまして新年の挨拶とさせていただきます。

東京のめっき工場の足元を 確かなものにするもの二つ

理 事 石川 進造

(株)ヒキフネ



新年おめでとうございます。若い頃だと「どこがおめでたいのかね」と鼻白んだものでしたが、最近は「この一年、何とかのり越えてきたことをお祝いするのだ」と素直に喜ぶようになりました。かように事業を継続することが困難な時代となりました。

直近の経験ですが、当社の売り上げの大きな部分を占めていた、マンションなどの内装金具（めっき部品）があります。マンション建築の好調を背景に、顧客の要求から金具の製造・めっき加工までを一貫して行い、一時期は繁忙を極めました。顧客との間には良好な信頼関係もあり取引も順調でした。

時代の流れもあり、顧客は数年前から中国生産の検討をはじめ、この二～三年、かなりの部分が中国生産となりました。さらに昨年、顧客は経営不振の同業者を吸収し、国内に残った商品も自社生産に置き換えるなど、ドラスチックに生産体制の改変に取り組みしました。予期していたことでしたが、発注量も激減し金型の引き揚げ要求もありました。過去の信頼関係などは、今の時代には何の役にもたちません。

幸いなことに、失った以上に代わりの仕事に恵まれ、何とか糊塗しておりますが、需要の変化は目まぐるしく、いまやっている仕事も、いつ無くなるのかわからないのが、今の不確かな時代なのです。

確かなことは、どんなに社会や需要が変化しても、変化に対応できる会社になることであり、それには、変化に対応できる「たくましい人」をつくることでしかありません。

もうひとつ、めっき業の存続に欠かせないこと事があります。それは環境問題です。私はめっきの仕事に就いてから50年になります。最近、私は次の世代の人に「めっき」の仕事を、続けられるようにする義務があると考えようになりました。東京のめっき工場にとって最近の環境規制は、経営手腕の良し悪し以上に大きな要素となってきました。水道水の水質規制から起こった各種の環境規制（水質規制・土壌汚染）は、下水道の排出規制のトリクレン・鉛から始まり、本年6月をもって暫定基準の切れる、ほう素、ふっ素、亜硝酸・硝酸性窒素の規制に及ぼうとしています。また、要監視項目としてはニッケルがあり、さらにアンチモン・亜鉛などに新しい規制の検討がされています。そのほか有害化学物質として規制されるものが、目白押しに続くようです。

事業所によっては関係の無い物質もあるので、一般に関心が薄いようですが、これから規制される、または規制されるかもしれない物質を含めると、他人事では無いはずです。しかも、この規制は水道水質の確保が起源なのです。東京23区では下水を水道水源に使

うというような話は、聞いたこともないしあり得ないことです。

確かに、水道水源となる公共用水（河川）では水道水質を守る上から、厳しい規制が行われるのは当然であり、私たちは納得もし、賛成をするところであります。

それなのに下水道も公共河川もひとからげにして、公平という理由で、全国一律の規制をかけるのは納得のゆかないところです。また海域にたいする規制は河川から比べると格段に緩いようですが、海が限りなく汚染してよいとは、私たちは少しも思っておりません。世界一、魚をたべるのが日本人なのです。

私は、納得のゆく説明のもとに各種の規制があるのならば、国民として、また地球人として率先して守ります。

間違いがあったらご指摘いただきたいのですが、本年6月で暫定基準の切れる「ほう素」の規制があります。この「ほう素」の除害は難しく不可能とされています。下水道の現場のある方は「水道水で薄めて流し規制を守るように」と云っています。冗談としか思えませんか。国は除害困難な規制をつくりながら、除害技術の開発や指導をしようもしないのは、全く理解のできないことです。

前置きが長くなりましたが、河川のほう素規制値は10ppm、海域の規制値は230ppmと大きな開きがあります。**海域の設定値は、石炭発電所から出る濃い「ほう素」の量を参考にして決めたようです。**ちなみに大阪府水質審議会では、大阪府には石炭発電所がないので、海域は10ppm（上乘せ基準）としています。大阪府では「人為的な行為で海域の「ほう素」濃度を上げるべきでない」としています。なんだか、背中がかゆくなるような話ではありませんか。

つまり、「石炭発電は重要だから、濃い「ほう素」を出して海の汚染はしかたがない」としかとれません。海はつながっています。大阪府は海域を10ppmにすれば、海がどれほどキレイになるとの説明をして欲しいものです。

でも、こんな議論は3年前に終わっているのです。私たちは生活に追われているうちに、そして、組合役員のかた達におぶさっているうちに、決まってしまったことなのです。**政令で決まったことを、ひっくり返すことは不可能に近いのです。**私も今になって気がつき反省と後悔をしています。

そこで、今後規制される物質については、アンテナを高くはり、情報を素早くキャッチし、その時々に応じて柔軟に運動を展開するつもりです。

いろんな運動方法が考えられます。どんな方法があるか皆様のお知恵借り、時と場合によっては、組合員の皆様に積極的に運動に参加していただきたいと思います。

ひとごとではありません。自分ごととしてお考えください。

組合ホームページ「組合員掲示板」に、運動の状況を詳しく報告します。是非ご覧ください。

今が一番のがんばりどころ

城東支部支部長 遠藤清孝



新年明けましておめでとうございます。新たなる一年の始まりを迎えるにあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

さて、景気については、このところの経済指標の数字からも明るい兆しが見えてきており、今年は、少しは期待感の持てるそんな年のスタートをきったのではないかと思います。しかし、環境問題については新たな規制の連続で、業界としてどう対応していくべきなのか、なかなかその答えは見いだせません。先日、ある国会の先生がこの環境について面白い表現でお話されていました。「今、『環境』という言葉は、水戸黄門の印籠のようなものだ。『環境』という印籠をかざすと誰もが『はっはっは』と言うしかない」行き過ぎた規制であっても、理不尽なものであってもなかなか反対しにくい今の状況を的確にあらわしていると思います。

それでは、我々めっき業界が受けている PPM 単位の規制値を長さに置き換えて述べさせていただきます。100 万倍に希釈したものを 1PPM とすれば 1PPM は 100 万分の 1 と言うことができます。例えば PPM を東京、大阪間 500 キロの長さ置き換え、比率であらわしてみると 500 キロの 100 万分の 1 は、わずか 50 センチの長さとなります。1PPM は新幹線で 3 時間近くもかかるあれだけ長い東京、大阪間のわずか 50 センチ分なのです。0.1PPM とになれば、わずか 5 センチの長さなのです。また今、亜鉛に新しい規制の動きがあります。その数字は 0.03PPM ということですので、わずかたった 1.5 ミリの長さになります。東京、大阪間 500 キロのわずかたった 1.5 ミリです、果たして本当にそこまで亜鉛の規制をする必要があるのでしょうか。亜鉛という金属は人間にとって必須の金属であり不足すると健康障害を引き起こします。水生生物であるミジンコのために規制をおこない人間が亜鉛不足となって健康障害を起こすことになれば本末転倒と言わざるを得ません。

次に、城東支部の支部員数について述べさせていただきます。昨年の 5 月の総会において城東支部の支部員数は 46 社でした。半年余り経った現在の支部員数は 43 社です。支部員数のピークが 77 社でしたのでいぶん減ったような印象を受けますが、鍍金組合 12 支部のなかで実は城東支部が一番減少率が少ないのです。他支部ではピークから 3 分の 1 くらいにまで減っているところが多く、減少の激しいところでは 4 分の 1 までになっている支部もあります。この理由については色々あると思いますが、一番に言えることは城東支部の皆さんは本当にがんばっているということが言えるのではないのでしょうか。昨年、八幡副理事長が新年会のご挨拶のなかで言うておられました。「同業者が辞めるとその分の仕事がまわってくるので、ある一面ではいいことのように思われがちだが、長い目で見たら決していいことではない。世の中のバランスはうまくとれているもので、めっき屋の数がそれだけなら仕事の量もそれだけだ。もし仮に残った者が 1 軒だけになったとしても、それがいい会社、いい業種だと言えるわけがない」まさにその通りだと思います。同業者がどんどん減っている業種に繁栄はありえないと思います。苦しい状況は続いています、今が一番のがんばりどころだと思います。みなさんでさらに結束強め、なんとか、がんばっていきましょう。

未来は自然にできる未来と自分たちで作る未来があります。日本や世界が進歩や変化していく未来と自分の身の回りにある家族、会社、業界、地域は自分で作っていく未来であると思います。自分たちで作る未来に向けてみんなで努力していきましょう。

最後に今年一年が組合員皆様にとって本当にいい年になりますように祈念をいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

厳しい財政運営を

連合青年部会
会長 深田 稔



あけましておめでとうございます。

組合員の皆様、また本部役員の皆様、日頃は連合青年部会に対しご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。紙面をお借り致しまして、御礼申し上げます。

組合員の減少に伴いまして、青年部会の会員数も年々減少しております。活動内容もレクリエーションは行わず、毎月の幹事会と数度の勉強会が中心になっております。その勉強会の予算もままならず、大村理事長、由田副理事長をはじめ、本部理事の皆様のご好意でやっと勉強会を開ける状況であります。

しかしながら、レクリエーションを実施しない事が良いとは全く考えておりませんが、連合青年部の財政が厳しい状況が必ずしも悪い事ばかりである、とも思えません。なぜなら、このような状況で活動して、どのような活動が出来るか、また何が必要か、等考えながら実行出来るからです。支部によっては青年部の会員数の著しい減少で勉強会や活動そのものが困難になりつつあるところもあります。支部という枠は近い将来、青年部には無くなるのではないのでしょうか。

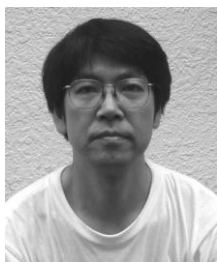
このように会長としての責任は多大で非常に重いと痛感しております。いずれ東京都鍍金工業組合を我々はしょっていかなければなりません。理想は高く、実行は足元からと申します。若い世代の組合員の方々に組合活動に興味を持っていただき、組合に加入している事の本来のメリットを自分自身で感じ、探していただきたいと思います。

今後も連合青年部会に、より一層のご理解とご協力の程、お願い申し上げます。

＜年頭所感＞

今こそ組合が 一致団結して

城北支部青年部会
会 長 田中貴嗣



新年明けましておめでとうございます。組合の皆様方におかれましては良い年をお迎えしていると存じ上げます。

昨年も不況の中なんとか無事に1年を終え新年を迎えることができました。しかし、我々業界を取り巻く環境は厳しくなる一方ではないでしょうか。とりわけ、環境問題においては、業界存亡の危機と言わざるをえません。土壤汚染においては、やめたくてもやめられないジレンマに陥り、また6月に暫定基準の期限切れになるホウ素・フッ素の問題においては、納得することができません。監督官庁ですら、いまだに処理方法を確認していないのに、どのようにして守っていけばいいのか？

めっきの種類においては、うちは関係ないからという会社もあるかと思いますが、いつ自分の身にこのような火の粉が降りかかって来るかわかりませんから、自分の身になって、組合員が一致団結して出来る事はやっていき出来ない事は断固抗議していかなければいけないと思います。これからも、この業界で生きていく以上自分達の環境が少しでも良くなるように、力を合わせていきたいと思っています。今年一年が皆さんにとっていい年でありますように祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。(岡中鍍研工業(株))

＜年頭所感＞

今年も 前向きに

葛飾支部青年部会
会長 太田 幸一



新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年も不況の中、土壤汚染などの問題がありましたが、会社をやめるのに数千万円も費用がかかって、やめるにやめられないという多くの声を聞きました。今年はほう素、ふっ素などの排水規制が待ち構えております。言い替えば、会社をやめたらどうなるというネガティブな考え方が、今後生き残るためにはどうしようというポジティブな考え方に変わっているように思えます。

毎年色々な問題が多く山積みされています。一つづつ山を乗り越えて進むことにより必ずや明るい未来が開けると信じて頑張っていこうと思っています。

私たち青年部は昨年2月に30周年記念式典を行いました、その時青年部会7名で何をやるべきなのかを考えた末、先輩のご指導のもと30周年を無事終える事が出来ました。

昨年1名増え8名で会運営を行っています、今年は2名新入会員が増える予定であります。今後も前を、また上を向いて歩いて行こうと思っています。

どうぞ皆様今後とも宜しくご指導の程お願い申し上げます。

今年1年、皆様にとって素晴らしい年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

環境省のパブリック・コメント

日本鍍金協会十日会
会 長 菊地 利博



新年明けましておめでとうございます。本年も十日会の活動、運営に対しまして、一層のご指導、ご鞭撻を賜りたく、皆様をお願い申し上げます。

昨年秋頃より、マスコミ等で、製造業の景況感が大きく回復しているとの報道に接する機会が増え、また、十日会の会員の方からも、「去年より忙しいね」との声が聞かれ、我々表面処理業界にも、僅かながらも明るさが感じられるようになった反面、価格、品質、納期等の競争は、年々激しさを増し、加えて、6価クロム廃止のための代替薬品によるコスト増をはじめ、土壤汚染対策などの環境対応への負担も、増加の一途をたどっています。

このような情勢を受け、私達十日会では昨年9月例会において、「土壤汚染の実態と、ますます厳しくなる水質基準」と題したパネルディスカッションを開催しました。これは、環境省の水生物保全水質検討会より提案された、「水生生物の保全に係る水質目標について」の垂鉛の水質目標値案に対して、同省の中央環境審議会にパブリック・コメントを提出された十日会の先輩をパネラーに迎え、環境省が新たな水質環境基準の制定を行うにあたり、広く国民の意見を聞くために募集した、「パブリック・コメント」とはどんなものなのか、その効果は果たしているのか、等についてディスカッションを行い、十日会会員もインターネットを通じて、環境省の動向に注意して、パブリック・コメント等に積極的に参加しよう、等の意見が多数出されました。

より良い生活環境を守り、次世代に引継いで行くために、様々な環境規制が必要であることは明らかですし、厳しい水質規制は、確かにめっき業への新規参入に対する「障壁」となるでしょう。しかし、いたずらに厳しい規制は、我々業界の負担増となり、我が国製造業の国際競争力を低下させるばかりでなく、規制する側の負担も大きいものであるはずです。特に、自然界に存在する濃度以下への規制などに対して意見する事は、一般市民の理解も得られる物と思います。従来も、新たな水質規制への対応は、全鍍連や各都道府県の鍍金工業組合の皆様がご尽力なされておりますが、これを応援するためにも、一人でも多くの表面処理業界関係者が、パブリック・コメント等に参加する事は、大変意義ある事です。厳しくなる一方の規制に対し、ただ先行きを案ずるのではなく、まず出来る事から行動を起こすことが、重要であると思います。

最後に、本年も十日会は、「討論する、司会する、協力する」の真髓をもとに、皆様にとって魅力ある活動をめざして参る所存です。また、本年が皆様にとって良い年でありますよう祈念致しまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

十日会ホームページアドレス <http://www.tokakai.com/>

2月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	日				
2	月			城東支部	
3	火	監事会	大田支部	城北支部	
4	水	広報委員会		中央支部	
5	木	環境委員会	品川支部・大田支部	目黒・世田谷地区	
6	金			葛飾支部	城南連合支部新年会
7	土				
8	日				
9	月		城南支部	足立支部	
10	火	訓練校技能照査学科	城西支部	西部支部	
11	水	建国記念の日			
12	木	正副理事長会・理事会	城西支部・城北支部		
13	金			葛飾支部	山崎五郎氏叙勲祝賀会
14	土				
15	日				
16	月		中央支部・本所支部	品川地区	
17	火			向島支部	
18	水		向島支部	本所支部	
19	木				
20	金		西部支部	葛飾支部	
21	土				
22	日				
23	月		城東支部・葛飾支部	蒲田・大森地区	
24	火			城西支部	
25	水		葛飾支部		
26	木				
27	金	訓練校成績判定会議	足立支部	葛飾支部	
28	土				
29	日				

大村理事長日誌



12 月

1 日(月)東京都労働局合同委員会

1 日(月)都議会公明党と懇談会

3 日(水)正副理事長会

4 日(木)健保組合打合せ

厚生年金基金運用委員会

環境委員会

5 日(金)都中小企業団体中央会役員会

11 日(木)あだち地場工業製品フェア

15 日(月)健保組合打合せ

環境プロジェクト

16 日(火)都中央会、東商、経営者団体の合同会、神戸徳蔵氏瑞宝小綬章受章祝賀会

18 日(木)東京都労働委員会

19 日(金)年金基金理事会

(有)植木電工業お通夜

22 日(月)城南支部忘年会

正副理事長都庁へ新年挨拶回り

東京都鍍金工業組合の正副理事長、専務理事、事務局は 1 月 8 日(木)、東京都庁の関係部局へ新年の挨拶回りを行った。

正午、東京都議会 1 階ロビーに集合して 2 班に分かれて大村理事長、由田副理事長、八幡副理事長、宮澤専務理事、前田課長が第一本庁舎の産業労働局、健康局、姫野副理事長、川上副理事長、間部副理事長、小原協組専務理事、志賀環研所長が第二本庁舎の環境局、水道局、下水道局へ新年の挨拶

を行った。

この後、湯島のめっきセンターに戻り、3 時から正副理事長会、4 時から東京ガーデンパレスで新年賀詞交歓会に臨んだ。



東鍍工組・公防協組

平成 16 年新年賀詞交歓会

東京都鍍金工業組合、東京鍍金公害防止協同組合の平成 16 年新年賀詞交歓会は、1 月 8 日(木)午後 4 時から湯島の東京ガーデンパレスで、来賓、組合員多数の出席を得て盛大に行われた。

平野普三雄総財務委員長の司会により、姫野正弘副理事長は「明けましておめでとうございます。両組合の賀詞交歓会が大勢のご参加を得て盛大に開催できたことを関係者一同心より感謝申し上げます。我々業界を取り巻く経済環境、環境規制等大変厳しい時代であるが、この 1 年希望をもって明るい年となるよう活動していきたい」と開会の挨拶をした。

両組合を代表して大村功作理事長は「明けましておめでとうございます。本日はお忙しい中を議員の先生方をはじめ組合員みなさん多数のご出席を賜りお礼申し上げます。昨年はデフレ不況の中、円高、5%台の失業率、前年度並み倒産件

数と悪条件の中、当業界にとってはお得意先が東南アジアへ進出し、国内の空洞化に伴い受注難と厳しい中を乗り越えてきた。年末にはようやく株価が若干回復し、政府は景気が幾らか回復していると報じているが、我々の行っている景況調査では、いくらか下げが止まった、悪い状況が止まったというデータが出ている。これらの中で新しい年を迎えた。経済の先行きについては大変不透明でまだまだ楽観できないが、政府も構造改革や景気浮揚策を積極的に行っており、我々業界に対しても、明るく過ごせるような政策を行って頂きたいと期待するところである。業界の喫緊の課題として環境問題があるが、1 つはホウ素、フッ素等の暫定基準が本年 6 月末をもって切れるが、まだ処理技術が確立されていないので延長をお願いしている。もう 1 つは土壤汚染問題で、悪いイメージが先行して不動産



業界ではめっき工場の跡地は売買しないと言われている。まだ処理技術で適確なものがない状況であるが、我々組合もいち早く環境省の調査機関の認定を取った。我々の資産である土地の価値がなくなることは廃業が難しくなったということである。このようなことを踏まえて東京組合は昨年 11 月に環境プロジェクトを立ち上げた。新たな環境規制が次から次へと出されており、1つの委員会で取扱うのは難しいということで、理論武装し、陳情請願等を行う。場合によっては国と争うことも辞さないということである。まだスタートしたばかりであるが今年 1 年闘えるような組織を作っていきたいと思う。組合運営については例年通り 4 つの柱をもとに、環境問題、人材育成、新技術の開発と製品化、情報化の推進を 5 委員会で進めて参りたい。今年も頑張っていく所存でみなさんのご支援をお願い申し上げます」と年頭の挨拶をした。

来賓として、保坂三蔵参議院議員、中西一善衆議院議員、太田明宏衆議院議員、小杉隆衆議院議員、宇田川芳雄元衆議院議員、東京都産業労働局商工部・市原博部長、都議会各党から、自民党幹事長の太西英男議員、樺山卓司議員、大山均議員、新藤義彦議員、三原将嗣議員、近藤やよい議員、服部ゆくお議員、公明党幹事長の石井義修議員、鈴木貫太郎議員、友利春久議員、野上純子議員、中嶋義雄議員、藤井一議員、民主党の和田宗春議員、日本共産党都議団団長の木村陽治議員、関係団体として全国鍍金工業組合連合会の笹野不二夫会長、日本鍍金材料協同組合の間宮勝理事長、隣接組合の埼玉県鍍金工業組合の吉田勇理事長から挨拶をいただき、小澤栄男総財務副委員長が来賓紹介、川上洋一副理事長の閉会の辞



をもって第一部を終了した。

第二部懇親会は池田敏則総財務副委員長の司会により、由田猛副理事長の開宴の挨拶のあと、海老名平吉顧問が関係団体代表者と共に乾杯の音頭をとった。懇親会は、八幡順一副理事長の中締め、間部健太郎副理事長の閉宴の辞までなごやかに行われた。

正副理事長 今年の組合運営の課題を語る

昨年より一部大手に限って景気に明るい兆しが出ているといわれるが、めっき業界にあっては回復を実感するには至っていないのが現状である。さらに今年は、ホウ素、フッ素等の暫定基準の期限切れや新たな規制強化の動きなどがあり、これら難問への対処に東京都鍍金工業組合にとっては正念場を迎えている。広報委員会は新春にあたり、正副理事長座談会を開き、昨年を振り返って頂くとともに今年の課題や組合活動等について話し合っ

木村秀利広報委員長 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。それでは今年の組合活動について、正副理事長に昨年を振り返りながら、新しい年の組合運営について抱負等をお願いします。

大村功作理事長 おめでとうございます。昨年より一部に景気回復がいわれていますが中小零細企業までその効果が及んでいないのが現状で、今年も相変わらず厳しい状況が続く

のではないかと思います。組合事業としては4つの柱、即ち環境規制問題への対応、人材の育成、新技術の開発と製品化、情報化の推進を5委員会を進めて参ります。特に昨年11月に立ち上がりました環境プロジェクトには積極的な展開をしてもらいたいと思っています。我々正副理事長も出来る限り応援して良い方向へ進めていきたい。殊にホウ素、フッ素、窒素の暫定基準が今年6月末に期限切れになりますので、その延長について積極的に動いていきたい。下水道局を管轄するのが国土交通省ですが、石原大臣に要望書を提出するとともに、場合によっては直にお会いして要望することも考えています。組合としては環境問題について都議会各党の先生方をお願いして問題解決をはかっていきたいと考えていますが、まずは暫定基準に対して積極的に動いていこうと考えています。

木村広報委員長 現在の暫定基準値を継続してもらうよう運動をしていくのですね。

大村理事長 現在の暫定基準値をそのまま延



長してもらうことは無理だと思います。とにかくデータがなく厳しい規制値が決まってから違反が出るようになっては困ります。環境省がとったデータではホウ素、フッ素に関して違反値が非常に少なく、環境省は処理出来るのではないかとみています。もう1つは東京の問題ですが、同じ下水道料金を払って、海域と河川では基準値が大幅に違う。東京の河川が水道水源になっているところはないし、何で海と川を分けることが必要なのか問題があり、出来れば東京はすべて海域にみなしてもらいたいと思います。

木村広報委員長 大村理事長の年頭の抱負を伺いましたが、理事長をバックアップする副理事長さんから組合事業に対するお考えをお願いします。

姫野正弘副理事長 昨年、新執行部として間部副理事長、八幡副理事長を迎えて、充実した大村体制が出来上がったと自信をもって言えると思います。新しい副理事長に加わって頂き、忌憚のない意見を言って頂けるので活性化した新執行部体制になったと思います。新しい2004年には期待と希望をもって、東京組合が一丸となって東京から地方へ、全国を変えていく新しい門出として、意義深い年になるのではないかと期待しています。

由田猛副理事長 姫野副理事長が言われるように大村理事長の方針に則って2003年は充実した体制となりました。間部副理事長、八幡副理事長が加わり、それぞれ各委員会を分担して充実した体制が動き出しました。特に環境プロジェクトが動き出して、我々もできる限りバックアップしていきたいと思います。総財務委員会としては、やはり組合員の転廃業に歯止めがかからず、昨年も20数社の脱退がありましたが、組合運営では幸いに黒字決算ができそうで有り難いことですが、将来的に、どのくらいの規模で安定運営ができるか、シミュレーションを考えなければいけないと

思います。それが大きな課題です。

川上洋一副理事長 21世紀は環境の世紀といわれていますが、環境確保条例、P R T R、窒素、リンの問題などが続いてきまして、今年はホウ素、フッ素の暫定基準の見直しなどが決められる時期にきて、これと闘うにはデータ闘争になるわけです。残念ながらホウ素、フッ素に関してのデータが少ないのは問題であり、なかには怖いから良いデータを出したという人がいたのはびっくりしました。いかにデータを集めるかが問題です。いま東京が何を困っているかを考えないといけな。東京組合は下水道地域ということで節水型になっていますが、それが裏目に出てホウ素、フッ素が処理困難物質となってしまった。この環境問題に対して一生懸命にやっているのは東京を置いて他にありません。訓練校を作り若い人を育成し、環研を作って排水分析、指導を行い、城南処理センターを作って濃厚シアン廃液を処理している。こんな組合は東京組合をおいて他にありません。そこまでやっても出来ないことは規制に無理があると思う。自然を守るためにはある程度の規制はやむを得ないが、工業地域と農地や清流域、東京湾から谷川岳まで同じ規制というのは無理があります。日本は工業があつてはじめて食料を輸入できるのであり、用途地域を考えて、工業を育成してほしいと思います。我々が守れる規制にして頂きたいことが最大の願いです。暫定基準の問題では、東京組合は産業技術研究所に代替技術の開発をお願いしたが、我々も努力したことを見せないといけな。ホウ素、フッ素にしても我々が受入れられる処理技術があれば受入れるが、まだ受入れられる処理技術が確立されていない。なぜ出来ないか理論付けをしていきたいと思います。

大村理事長 暫定基準に対する努力という話ですが、いまのところホウ素に関しては処理技術が確立されていない。我々が受入れられる簡易な処理技術があればよいが、なければ

努力のしようがないとも言えます。

間部健太郎副理事長 公害防止協同組合を担当させて頂いて、非常に責任の重いセクションについたなという思いです。協同組合の中をみると、非常に財政的に厳しい状況に追い込まれています。これを再構築するためには、どんなことをどうすべきか、副理事長を仰せつかってから8ヶ月間、再生にはどんなことをしていけばよいのか、それに専念してきました。新年の目標としては、多分ノーシアン化が進んで、これまでのシアン処理事業という柱が細くなってくると思います。そのため他の事業を展開しないといけない。何をするか、土壤汚染に関連した事業を取上げていきたいと同時に、いま有価物の回収を行っていますが、回収率が大体6割くらいで、これを80%くらいに引き上げるだけで相当の利益になりますのでこの辺を研究したいと思います。ただ組合だけでは研究出来ないなので、産学連携の形で勉強したり、先生方と連携しながら、その辺の技術を確立していきたい。それも運営委員会、正副理事長にはかってやっていきます。今年の課題として、最近土壤汚染に関連する仕事が多過ぎて、過大な仕事量になってきて、現状の公防協組職員だけではほとんど動けない状態です。折角の仕事を断るわけにもいきませんし、職員が懸命にやっていますが、どうしても人員が足りない。土壤調査依頼は廃業した組合員が多く、元々は仲間ですから、仲間を助けるという思いがありますが、正副理事長にお願いしたいのは人員を増やすこと、それも単純に職員を増やすのは問題がありますから、どういう形で増やすか、きちんとした根拠を示して、シナリオを描いて、運営委員会にはかり、正副理事長にはかりたいと思っています。

大村理事長 いま公防協組の専務理事がオールマイティに1人で動いており、それにも限界がありますから、今年は1人入れてはどうかと思います。どういう人をいれるかはこれ

からの問題で運営委員会で検討してほしいと思いますが、東京都でも半年間無料で人材を派遣するという話もあり、めっき関係で明るい人を頼んでおけば適任者が見つかるかも知れません。みなさんの賛同が得られれば早急に手を打ちたいと思います。

間部副理事長 公防協組の人員を増やすことで、僕は常勤での雇用は考えていません。やはり福利厚生費や人件費負担が大きくなりますから、アウトソーシングを使っていきたいと思う。めっき業をやめた方や経験のある人をお願いしても、常用でなければ問題がありませんので、そういう方向を考えています。

八幡順一副理事長 正副理事長会に入って、同じ執行部ですから、審議段階では色々な意見を出させていただきますが、決まったことに対しては理事長を中心に、組合のために精一杯進めていきたいと思います。昨年を振り返りますと、私ども城東支部では組合をやめる方が多く、さびしく感じっていますが、私は基本的に同業者は多くなければいけないと思います。その地域に同業者が集積しているから産業として成り立つのであり、同業者が少なくなることは業界の衰退に繋がると 생각합니다。仮に自分のところだけ残って、しばらくは仕事があるでしょうが、いずれ産業としての歯車が噛み合わなくなってしまう、業界の存続問題になってくると思います。環境プロジェクトは私も一員ですが、環境問題がこれだけ厳しくなってくると、やめざるを得ない状況に追い込まれることが考えられますので理に合わない規制に対しては断固として訴えていきたいと思っています。

木村広報委員長 一通り正副理事長のご意見を伺いましたが、今年も組合一丸となって困難な諸問題に対処して明るい展望を切り開いていきたいと思っています。どうかよろしく願います。それでは時間も来ましたので、この辺で座談会を終了させていただきます。

東鍍工組高等職訓校第 35 期訓練生募集

本校の特色

1. 職業能力開発促進法に基づく「めっき技術者養成」の全国初の認定職業訓練校で、専門教育訓練機関として、永い歴史と伝統があります。
2. ものづくり現場で、すぐ役立つ教育訓練をモットーとし、業界で必要とされる各種資格取得への道が開かれています。
3. ものづくり現場での実務知識や豊富な経験をもつ、優れた講師陣により、基礎から応用に至る人材育成カリキュラムの中で、懇切丁寧にわかりやすく教育します。
4. 充実した設備・機器により、基礎実技から専攻実技へと最大限の「実技教育訓練」を取り入れています。
5. 授業内容に、ビデオ、スライド・OHP等の視聴覚教育機器を取り入れ、可能な限り活用し、教育訓練効果の向上に努めています。
6. 教科書・教材のほかに、豊富な資料を用いて、効果的な教育訓練を行っています。

修了生には多くのメリットがあります。

- (1) 技能照査(学科、実技試験)の合格者に対して東京都知事により合格証書並びに技能士補の称号が授与されます。
- (2) 合格証書は、国家検定である技能検定2級の学科試験の免除が受けられます。
- (3) 東京都1種公害防止管理者の資格が得られます。
- (4) 特定化学物質等作業主任者及び有機溶剤作業主任者の資格が得られます。
- (5) 粉じん作業の特別教育修了証(受講者)が交付されます。
- (6) 各種試験器具や測定機器類を、自社の品質管理や生産管理、また技術改善等にご利用できます。(有料)。その他にも、数々の特典があります。

募集概要

募集科目	金属表面処理系めっき科
募集人員	40名(先着順による)
訓練期間	1年間(平成16年4月～17年3月)
訓練日時	毎週 火、金曜日(午後2時～8時00分) 但し実技は8時30分、特別科目は9時20分まで
入校資格	高卒以上または同程度の学力のある方
費用	年額346,100円 費用納入は入校時、6月末、9月末、12月末の4回に分納します。
募集期間	平成15年12月～16年3月
その他	訓練校の主旨に賛同いただいた方であれば資格は特に問いません。 申込順に授業に支障をきたさない範囲で許可します。 聴講生制度があります。聴講料は有料。

国内留学制度

東京都以外の道府県に所在するめっき事業所に勤めていて通学が困難な方やめっき会社に勤めていないが、めっき技術を学びたい方のために、当訓練校で修学する便宜(東京の組合員事業所に勤務など)をはかる制度です。

無料一日体験入学

入校を検討中だが、カリキュラムの内容や校内の雰囲気を知りたいと希望される方の為の1日体験入校制度です。学科カリキュラムの説明を受けたり、授業参観することで1年間の教育訓練の内容が分かります。個別のご相談もお受けします。

神戸徳蔵氏瑞宝小綬章受章祝賀会

昨年秋の叙勲で訓練校教頭の神戸徳蔵氏が工業技術院製品科学研究所での研究開発等の功績により瑞宝小綬章受章の栄に浴された。この受章は組合にとっても名誉なことであると、東京都鍍金工業組合役員等有志による神戸徳蔵氏瑞宝小綬章祝賀会が昨年12月16日(火)午後6時から上野の東天紅で、来賓、組合役職員93名が出席して盛大に開かれた。

志賀孝作環研所長の司会により、姫野正弘副理事長は「神戸さんは訓練校教頭として次の時代を担う若い人材を育てることにご指導を頂いている。また環境面においても東京組合の学識経験者としてお世話になっている。神戸さんの叙勲受章祝賀会開催の運びになり、ご来賓をはじめ本部役員、各委員会のみなさん多数

の出席を得て盛大に開催できたことを関係者として心より感謝申し上げる。厳しい経済状況であるが、今後も業界の発展のために神戸さんの力を賜るようお願いしたい」と開会の挨拶をした。

役員有志代表として大村功作理事長は「神戸さんの祝賀会を開催したところお忙しいなかを大勢の出席を賜り厚くお礼申し上げます。祝賀会を開催するに当たり本人に相談したところ出来るだけ内々にしてほしいという希望で、組合理事、監事、内輪のごく親しい方だけに声をかけたところ欠席者もなくにぎにぎしく開催できたことをお礼申し上げます。このたびの受章は本人はもとよりご家族の皆さんのお喜びもひとしおのものがあると思う。神戸さんは平成9年6月に東京組合の環研所長、訓練校教務主任として入所して



頂いた。環研では若手を育てて頂きたいとお願ひしていたが、お蔭様で司会をつとめる志賀所長等若手が育っている。また環研の機能強化ということで国からの機器類の貸与にもお力添えを頂いた。訓練校では生徒のレベルアップということで各種資格を積極的に取るように指導するとともに、修了生のレベルアップ事業でネットワークの名簿を作成したり、講演会などを積極的に展開してもらった。平成 10 年から 1 期 2 年公防協組専務理事をつとめて頂き、色々な技術的な問題の解決に努めて頂いた。東京組合としても厳しい時代にあり、組合職員を指導し助けて頂き感謝している。神戸さんは、日大工業化学科を卒業して約 50 年間表面処理一筋にこられた。1 つの仕事に専念してこられたことは本人も幸せであろうが、その間色々な業績を上げられて、私ども組合の名誉に止まらず業界全体にとって今回の叙勲は意義深いものがある。これからも健康に留意されて、後輩の指導にご協力を賜りたい」と挨拶をした。

宮澤裕専務理事が略歴紹介(別掲)を行い、来賓として瀬田新二名誉顧問、海老名平吉顧問、友人代表として川田貢氏から神戸氏の人柄を称える祝辞があり、東京都鍍金工業組合、東京鍍金公害防止協同組合、環境委員会、技能教育委員会、組合事務局職員から記念品の贈呈、お孫さんから花束贈呈が行われた。

このあと、神戸徳蔵氏は「この度は、私のために理事長始め理事、委員会、ご来賓の皆様にご出席賜り、身にあまご祝辞、記念品を頂き、感謝申し上げます。振り返ると昭和 36 年に通産省に入所して以来、現在に至るまでめっき一筋に仕事を行ってきた。私が通産省の研究所に就職した頃に無電解めっきがわが国で行



われるようになってきた。私は、この無電解ニッケルめっきでアモルファス、即ち非晶質が常温でできることに興味を持った。それ以前のアモルファスは溶融した金属を急冷する方法でしか出来ないとされていた。無電解ニッケルめっきによってできるアモルファスが加熱による変化によって結晶になり、その時に磁性のなかった、ニッケルが磁性をおびる共に硬さや耐摩耗性が向上するなどの現象を突き止めることができた。その後、環境問題から、無電解ニッケルめっきの寿命の長いめっき液の開発を行い、現在、廃棄物が有効利用できる無電解ニッケルめっきのリサイクル装置の研究を行っている。これもひとえに皆様方のご指導とご鞭撻があったことによるものと深く感謝申し上げる。私は、めっきはどわが国に適した産業は他にないと思っている。めっきは現在のハイテク製品である電子機器の軽量化や高機能化に欠かせない技術で、これなくして我々の豊かな生活は成り立たない。この技術を生涯の仕事に出来たことは、大変幸せであると思う。今回の受章において、経済産業省の研究機関から 4 名が受章された。この内、研究

業績で受章されたのは2名で、その1人は、ロボット工学の権威者とめっきを研究していた私である。私が選ばれたことは、ロボット工学とめっき技術が同等に評価されたものと思っている。是非、皆様も自分の仕事に自信を持って頑張ってもらいたい。本日はまことに有り難う御座いました」と謝辞を述べ、川上洋一副理事長の閉会の辞で第一部を終了した。

第二部祝宴は間部健太郎副理事長の閉宴の挨拶に始まり、岩永彰氏の祝辞のあと、由田猛副理事長の乾杯音頭で祝宴に入った。高原俊昭健保組合常務理事の万歳三唱、八幡順一副理事長の閉宴の辞まで祝宴はなごやかに進められた。

神戸徳蔵氏略歴

昭和8年6月29日群馬県甘楽郡南牧村大字大塩沢499番地の生れ。昭和27年3月群馬県立富岡高等学校卒業、4月日本大学工学部工業化学科入学、昭和31年3月同大卒業と同時に日本大学東北工業高等学校専任講師として赴任した。昭和36年2月通産省工業技術院産業工芸試験所に技官として入所、昭和44年4月産業工芸試験所技術第一部金工技術課主任研究官に昇任。その後組織改正があり、昭和52年3月に工業技術院製品科学研究所応用性能部表面技術課長に昇任。特別研究「亜鉛めっきの性能改善に関する研究」に取組み、研究開発の推進に大きな成果を上げた。昭和56年10月製品科学研究所応用性能部部長に昇任。環境庁公害特別研究「無電解めっき老化廃液の処理技術に関する研究」に積極的に取り組み、めっき廃液中の有用成分の金属及び有機化合物の回収技術の開発に多大の成果を上げた。昭和57年1月から産業技

術審議会専門委員、同年8月から技術開発研究費補助事業推薦委員として技術行政の推進、各種技術開発プロジェクトに尽力された。昭和61年4月から製品科学研究所基礎性能部部長に就任と同時に環境庁公害特別研究「リン系難処理化学めっき廃液の処理技術に関する研究」に取り組み、めっき廃液中に副生成物として産出するリン系化合物の処理技術を開発された。

昭和36年工業技術院入所以来、平成6年3月物質工学工業技術研究所退官まで33年余表面処理技術の研究一筋に情熱を傾けて研究開発に専念、多大な成果を上げてこられた。平成6年8月全国鍍金工業組合連合会理事に就任、「中小企業労働力確保対策技術開発事業」に取り組み、電気めっき工程の自動化の研究開発に成果を上げられた。平成10年5月東京鍍金公害防止協同組合専務理事に就任、技術面ばかりでなく円滑な組合運営に努めた。平成9年6月東京都鍍金工業組合環境科学研究所所長に就任、機能の充実とともに、組合員事業所の公害防止の支援に積極的に努められ、併せて職業訓練校運営に尽力し職業能力開発推進法に基づくめっき技術の全国唯一の職業訓練校として、良き伝統や輝かしい歴史を残すことに努められた。修了生に対しては33年ぶりに修了生名簿を創刊するとともに修了生フォローアップ事業を積極的に推進された。表面処理技術の開発と業界を支える人材の育成に並々ならぬ努力を重ねる一方、めっき業界の発展向上に組合が直面する困難な問題に情熱を努力を傾けて果敢に挑戦されるなど大きな成果を上げてこられた。

2月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00 C:17:00～20:30)				
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)
3	火	A	皮膜試験① (めっき法)	試験の概要、皮膜の外観、耐食性、厚さ、密着性等。 東京都立産業技術研究所 水元 和成
		B	皮膜試験② (めっき法)	耐久試験及び密着性試験の種類、特長、方法、選択、耐磨耗性試験等。 東京都立産業技術研究所 水元 和成
6	金	A	機器分析① (排水分析)	排水分析に関する機器分析その1。技能照査学科説明。 【定期試験④】 高等職業訓練校 神戸 徳蔵
		C	実技(応用1)	各班によるテストピースの作製。 東京都立産業技術研究所 土井 正、環研
10	火	A	機器分析② (排水分析)	排水分析に関する機器分析その2。 【技能照査学科試験】 高等職業訓練校 神戸 徳蔵
		C	実技(応用2)	各班によるテストピースの作製。 東京都立産業技術研究所 水元 和成 環研
13	金	A	廃液処理 (廃水処理)	熱加水分解法による濃厚シアン廃液処理方法。 (株)アクアテック 大西彬總
		C	実技(応用3)	各班によるテストピースの作製。 東京都立産業技術研究所 土井 正、環研
17	火	A	めっきの原価管理 (特別講演)	パソコンを利用しためっきの原価計算方法 (株)東電工舎 山田英佐夫
		C	実技(基本1)	各班毎に各種の試験及び測定。 東京都立産業技術研究所 水元 和成 環研
20	金	A	めっきの不良対策 (特別講演)	各種めっき液の不良対策の方法について 高等職業訓練校 神戸徳蔵
		C	実技(基本2)	めっき厚さ(顕微鏡)、熱衝撃試験等。 東京都立産業技術研究所 水元 和成 環研
24	火	C	実技(基本3)	耐磨耗性試験、塩水噴霧試験など。 東京都立産業技術研究所 松田寛子、環研
27	金	C	実技(基本4)	硬さ試験、表面粗さ測定、光沢度測定、硝酸ばっき試験など。 東京都立産業技術研究所 水元和成、環研

※聴講料は1科目クーポン券3枚、または7500円です。



明けましておめでとうございます



株式会社 都南ビーピー 代表取締役 大村 功作 本社 東京都目黒区上目黒4-5-1 工場 東京都目黒区上目黒2-45-12 〒153-0051 TEL 03(3719)8221 FAX 03(3760)9027	京王電化工業株式会社 代表取締役 姫野 正弘 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘3-6-1 TEL 0424(83)1900
株式会社 協和 代表取締役社長 由田 猛 本社 東京都豊島区東池袋1丁目7番12号(日産ビル) 〒170-0013 TEL03(3986)1591(代) FAX03(3988)8923 工場 高崎第1・高崎第2・川越・シンガポール マレーシア・タイ・中国	合資会社東亜鍍金工場 代表社員 川上 洋一 〒146-0093 東京都大田区矢口2丁目32番7号 TEL 03(3759)3446(代)~8 FAX 03(3759)3448
株式会社 入谷電鍍所 代表取締役社長 間部健太郎 〒110-0012 東京都台東区竜泉1丁目9番3号 TEL 03(3875)6146(代) FAX 03(3875)6149	八幡鍍金工業株式会社 代表取締役 八幡 順一 本社 東京都江戸川区平井5丁目20番9号 〒132-0035 TEL03(3617)7707 FAX03(3617)7709 篠崎工場 東京都江戸川区篠崎町3丁目33番11号 〒133-0061 TEL03(3670)2120 FAX03(3670)2062
有限会社 朝日鍍金工場 代表取締役 遠藤 清 専務取締役 遠藤清孝 〒132-0025 東京都江戸川区松江4-20-11 TEL 03(3653)3431 FAX 03(3652)2225	有限会社 元井鍍金工場 代表取締役 元井 民夫 〒171-0044 東京都豊島区千早2丁目37番4号 TEL 03(3973)0056(代) 03(3973)0057~8 FAX 03(3974)7324
木村鍍金工業株式会社 代表取締役 木村 秀利 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-12-3 TEL 03(3491)7653 FAX 03(3491)4074	株式会社 歓 鍍 金 代表取締役 中澤 敏明 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-34-2 TEL 03(3441)4910 FAX 03(3441)4640



明けましておめでとうございます



株式会社 トーテック

代表取締役 小谷野 英勝

本 社 東京都目黒区下目黒2丁目13番7号
〒153-0064 TEL03(3493)0231 FAX03(3779)5296
千葉事業所 千葉県香取郡東庄町宮野台1-50 東庄工業団地
〒289-0623 TEL0478(87)1120 FAX0478(87)1018

藤田鍍金工業株式会社

代表取締役 藤田 直人

〒140-0004 東京都品川区南品川4-17-16
TEL03(3474)3563
FAX03(3474)3548

有限会社 伊豆鍍金工業所

取締役 原 清一

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-5-1
TEL03(3493)0308(代)
FAX03(3491)8795

平和工業株式会社

代表取締役 内藤 雅文

本 社 東京都大田区京浜島2丁目2番4号
〒143-0003 TEL03(3790)1031(代) FAX03(3790)2828

有限会社 平野メッキ工場

代表取締役 平野普三雄

〒116-0012 東京都荒川区東尾久2-3-7
TEL03(3895)5902 FAX03(3809)1966
三郷工場 埼玉県三郷市彦江1-71-1
〒341-0058 TEL048(953)2301 FAX048(953)2302

東京都鍍金工業組合 大田支部 役員一同

城南連合事務局 東京都品川区小山4-2-4
〒142-0062 (森本ビル2階)
TEL03(3785)0078 FAX03(3788)1678

株式会社 篠根鍍金

代表取締役 篠根 健一

本 社 東京都荒川区東尾久2丁目9番1号
〒116-0012 TEL&FAX03(3895)1759
工 場 埼玉県草加市稲荷2丁目12番6号
〒340-0003 TEL0489(31)7675 FAX0489(31)2407

野上化学工業株式会社

野上 敬
野上 悟

〒114-0035 東京都北区田端新町1-11-13
TEL03(3894)5195 FAX03(3800)5195
東京工場・名古屋工場・羽生工場

有限会社富士友工業所 ＝貴金属メッキ各種＝

代表取締役 下平 誠

〒110-0013 東京都台東区入谷1丁目33番10号
TEL03(3872)4781
FAX03(3871)5959

株式会社小嶋メッキ工業所

代表取締役社長 小嶋 摂郎

〒111-0053 東京都台東区浅草橋5丁目10番10号
TEL03(3851)5870(代)
FAX03(3851)5882



明けましておめでとうございます



株式会社 梅田鍍金工業所 代表取締役 永田 一雄 〒123-0851 東京都足立区梅田 3-16-1 TEL 03(3880)1271 FAX 03(3889)8530 k-nagata@courante.plala.or.jp	東京都鍍金工業組合 足立支部 常任理事 小澤 栄男 支 部 長 永田 一雄 副支部長 細井 碧 副支部長 石川 和男 副支部長 橋本 英雄 副支部長 磯村 博明 〒123-0851 東京都足立区梅田 3-16-1(株梅田鍍金工業所内) TEL03(3880)1271 FAX03(3889)8530
株式会社八神化学工業所 代表取締役社長 永田 吉輝 〒123-0856 東京都足立区本木西町 8-25 TEL 03(3890)4236 FAX 03(3890)4238	東京都鍍金工業組合 葛飾支部 支 部 長 神谷 博行 副支部長 西谷 幸一 副支部長 伊藤 精二 副支部長 小倉 攻一 副支部長 広根 淳一 副支部長 佐藤 秀昭 副支部長 中田 充彦 〒124-0013 葛飾区東立石 1-7-1 ドール 1F-101 TEL 03(3696)0325 FAX03(3695)4701
光陽鍍金株式会社 代表取締役 菊池 忠男 〒124-0001 東京都葛飾区小菅 3-15-11 TEL 03(3602)6815 FAX 03(3603)1718	神谷電化工業株式会社 代表取締役 神谷 博行 〒124-0012 東京都葛飾区立石 2-18-8 TEL 03(3695)1304 FAX 03(3695)1346
株式会社 ヒキフネ 株式会社 ヒキフネ技研 取締役会長 石川進造 代表取締役社長 石川輝夫 〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木 2-4-12 TEL03(3696)1981 FAX03(3696)4511 http://www.hikifune.com	大日工業株式会社 代表取締役 小倉 攻一 〒124-0011 東京都葛飾区四つ木 5-16-11 TEL 03(3691)9501 FAX 03(3691)9504
東京都鍍金工業組合 向島支部 支 部 長 石田 昌久 副支部長 仲俣 雅行 副支部長 向坪 昭 副支部長 大場 章司 副支部長 深田 稔 役員 一同 〒131-0043 東京都墨田区立花 5-17-17 TEL03(3617)5779 FAX03(3614)5653	株式会社 進光舎鍍金 代表取締役 池田 敏則 〒131-0041 東京都墨田区八広 4-42-7 TEL 03(3612)6975 FAX 03(3612)6945



明けましておめでとうございます



新東 株式会社 代表取締役 石田 昌久 〒131-0043 東京都墨田区立花5-8-7 TEL03(3611)8251 FAX03(3617)7102 Eメール:Shinto@mekki.co.jp URL:http://www.mekki.co.jp	東京都鍍金工業組合 本所支部 支部長 山田英佐夫 副支部長 岡本 博司 副支部長 在間 茂夫 副支部長 酒巻 正明 副支部長 横山 昇 役員 一同 〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋3-10-9(株東電工舎) TEL03(3622)8111 FAX03(3622)8107
有限会社半田鍍金工業所 代表取締役 半田 實 〒189-0011 東京都東村山市恩多町5-43-14 TEL042(393)0960 FAX042(398)1977	東京都鍍金工業組合 西部支部 支部長 西原敬一 副支部長 柴 太 役員 一同 〒184-0004 東京都小金井市本町1-7-1 SSビル TEL042(384)4718 FAX042(382)8195
高砂電鍍工業株式会社 代表取締役 高村 昌利 〒187-0032 東京都小平市小川町2-1972 TEL042(341)3380 FAX042(343)4582 URL:http://www.takasagodento.com	ニシハラ理工株式会社 代表取締役 西原 敬一 本社・武蔵村山工場 東京都武蔵村山市伊那平2-1-1 〒208-0023 TEL042(560)4011 FAX042(560)8550 狭山工場 埼玉県入間市狭山ヶ原108 〒358-0032 TEL042(934)6116 FAX042(934)4640 佐賀工場 佐賀県三養基郡上峰町堤2100-34 〒849-0124 TEL0952(53)1215 FAX0952(53)1210
株式会社精密電化工業所 代表取締役 大内 源司 専務取締役 西村 福司 〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-2-27 TEL042(541)2250 FAX042(541)0894	株式会社 杉並化学 代表取締役 角田 洋久 〒196-0021 東京都昭島市武蔵野2-9-9 TEL042(544)1578 FAX042(544)3415
東京都鍍金工業組合 亜鉛めっき部会 会長 菊池 忠男 副会長 遠藤 清 副会長 半田 實 副会長 中村 昭人 副会長 内山 昇 役員 一同 〒113-0034 東京都文京区湯島1-11-10 TEL03(3814)5621 FAX03(3816)6166	株式会社 吉崎メッキ化工所 代表取締役 吉崎 一紘 〒190-0033 東京都立川市一番町4-73-3 TEL042(531)1242 FAX042(531)6734

訃 報

齋藤隆市様(中央支部・有齋藤鍍金工場取締役会長)昨年12月26日午後9時28分死去、65歳。告別式は1月10日午後1時より台東区西浅草の東本願寺・大谷ホールで行われた。喪主は長男の功氏。

田仲稔様(全鍍連顧問、茨城県組合元理事長)昨年12月27日死去、81歳。告別式は12月30日水戸市のセレモニー富士水戸駅南館(富士祭典)で行われた。喪主はご令室のけい様。

神谷紀美子様(葛飾支部・神谷電化工業(株)神谷博行社長のご母堂)昨年12月29日午前1時58分、肝道癌のため死去、81歳。告別式は1月17日午後6時から葛飾区立石の源寿院会館で行われる。喪主は博行氏。

上原栄一様(大田支部・(株)東京協栄取締役会長)昨年12月31日虚血性心不全のため死去、70歳。告別式は1月10日午前11時から横浜市港北区菊名の新横浜奉斎殿で行われた。喪主はご令室恵美子様。

(株)昭和鉛鉄高安新社長就任

(株)昭和鉛鉄は、このほど昨年12月代表取締役社長の高安清澄氏が会長に就任し後任の社長に高安彰氏が就任したことを発表した。

表協総会・各賞授与式

(社)表面技術協会(本間英夫会長)は来年2月27日(金)午後3時から千代田区麹町の弘済会館で第55回通常総会及び各賞授与式を行う。平成16年度表面技術協会各賞受賞者は次の通り。

[1] 協会賞 業績:エレクトロニクスデバイス製造に対応する湿式めっき法の開発と応用に関する研究 縄舟秀美(甲南大学理工学部教授)

[2] 論文賞 (1)論文:ニッケル電析抑制機能に及ぼすプロパギルアルコールの拡散速度、被覆率および還元速度の影響 松田五明、浅富士夫(早稲田大学理工学総合研究センター)、河南賢、小林洋介、横島時彦、逢坂哲彌(早稲田大学理工学部)
(2)論文:アルコール中でのカーボンナノチューブの液相合成 蒲生西谷美香(筑波大学先端学際領域研究センター)、中川清晴、張亜非(科学技術振興事業団)、太田慶新(株)マイクロフェーズ)、蒲生秀典(凸版印刷(株)総合研究所)、安藤寿浩(物質・材料研究機構)

[3] 技術賞 (1)技術:電動車両用二次電池の実用化に伴う表面制御技術の確立 佐藤登、八木一彦(株)本田技術研究所栃木研究所)、押谷政彦、岸本知徳(株)ユアサコーポレー ション)

(2)技術:りん酸亜鉛処理用新液体表面調整剤の開発 松下忠、中山隆臣、永嶋康彦、下田健介、坂内洋勝、高木靖(日本パーカライジング(株)総合技術研究所)、宮崎康(日本パーカライジング(株)製造部)

[4] 進歩賞 (1)業績:レーザー照射と電気化学的手法を用いたアルミニウムの表面微細加工 菊地竜也(株)フルヤ金属)

(2)業績:希土類元素を用いた化成処理プロセスの開拓とクロムフリー化成処理膜への展開 小林靖之(大阪市立工業研究所)

[5] 技術功労賞 市川和美(カヤバエ業(株)岐阜事業所)、勝又正博(株)フジオカ)、斎藤清四郎(新日本製鐵(株))、下田壽(JFEスチール(株))、森田英義(株)日本電気化学工業所)

一支那そば

(株)トキン
伏原 暉幸



いつも通る道にいつも目に入るラーメン屋の看板が気になり、ちょうど昼時だったこともあり入ってみることにした。こじんまりしたカウンターだけの店内は、若い従業員と若い客でほぼ満席だった。早速看板になっている支那そばを注文したが、出てきたのはどこにでもある普通のラーメンと変わらなかった。

気になる支那そばの由来は、満席の客に気後れしとうとう聞くことは出来なかった。

近頃支那という言葉を目にするのはほとんどない。少し前、ずばずばものを言うことで知られる東京都知事が、演説中使用しているのをテレビのニュースで見たことがあるが、しらけた感じでその場にそぐわなかったように思えた。

しかし知事が若い頃戦前は、支那を中国と呼ぶ人はほとんどいなかったはずである。支那と呼ぶ以外ほかに言いようがなかったのではないのでしょうか。

支那と言う語源は、千五百年以上前インドで現在の中国方面を“シナ”あるいは“シナスタン”と呼ばれていたのが起源とされている。“シナ”は中国最初の統一国家“秦”に由来し、“スタン”は土地・地域の意味で、パキスタン・アフガニスタン・トルキスタンに見られる“スタン”である。その後西方に伝えられたシナは、英語でチャイナと呼ばれるようになる。

中国は戦乱がある度に国そのものが消滅し、同じ土地に別の国が建国することを繰り返してきた。そのため自らの土地・国を全体として呼ぶ語はなかったし、必要もなかった。王朝の名称が周辺の種族に用いられ、自らを世界の中心において“中国”と称することもあった。自己に対する平等を認めないことから、周辺の国は常に強大な中国に隷属する蛮夷に過ぎなかったのである。

しかし、インドまで行って仏典を持ち帰った熱心な仏教者達は、自国の名称であるシナには大変困り、そこで支那という美字を当てたとされる。このシナという名称が、日本でごく一般的に用いられるようになったのは明治になってからである。当時の中国は満州族が支配する清朝の時代であった。その時代日本に亡命した漢民族の孫文は、旅館に泊まった時国籍欄に支那人と書き、清国人を名乗ることをしなかった。又、明治の後半長く日本に留学しその後も日本人とのかかわりが深かった魯迅は、自分の国を支那といい、日本語で文章にする時は支那と書いた。このように当時のインテリは好んで支那という言葉を使い、悪意を感じることは少しもなかった。それは英語の出来る中国人が、自国をチャイナと呼び自らをチャイニーズと言うのとまったく同じことである。

明治27年日清戦争に敗れた清国は屈辱的な条約を飲まされる。その後日本による満州国の建国は、日本人が使用する“支那”にも影響を及ぼし、しだいに単なる名称では無くなってきた。戦勝に酔う日本人の中には支那人を蔑んで見る人がおり、チャンコロ呼ばわりする人までいた。そうなると支那知識人の中にも日本人に対する感情と重なり、支那という名称を嫌うようになってきたのである。

昭和20年敗戦は日本を一変させた。新聞は敗戦を境にして支那を使用することはなくなった。これは日本政府が各中央省庁・新聞雑誌社・学校等へ、中国が嫌う支那を使用しないよう通達を出したからである。その後この通達は無制限に範囲が拡大し、支那という言葉はしだいに日本語の語彙から消えていったのである。

李香蘭が主演し大ヒットした映画『支那の夜』は、『蘇州夜曲』に改題することになってしまった。

大多数の中国人は戦前も戦後も支那という言葉を知らないはずである。

若い日本人には支那という言葉はレトロ感覚以外のなにものでもないはずである。

支那そばは普通のラーメンだったが、支那という言葉には妙に悲哀を感じる。この言葉の奥には、近代における日・中間の複雑で不幸な問題が絡んでいるからかもしれない。後味の悪い支那そばになってしまった。

* 矛盾 *

梁山泊

楚人に、盾と矛を鬻(ひか)ぐ者あり。之を誉めて日く、わが盾の堅き事、よく陷(トヲ)す物無し、と。又、その矛を誉めて日く、わが矛の利なる事、物に於いて陷さざる物無し、と。ある人日く、子の矛をもって、子の盾を陷さば如何、と。その人応うる能わず。

昨今、テレビ等で健康指向の番組や記事で、健康食品を取上げる事多い。それだけ不健康な生活が目立つのであろうか？

人に必要なミネラルに注目してみよう。ミネラルって何？人が生命を維持するのに必要な無機物元素である。常量元素は水素、炭素、窒素、酸素、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、磷、硫黄、塩素、カルシウムの11種。微量元素は、クロム、マンガン、鉄、コバルト、銅、亜鉛、セレン、モリブデン、沃素の9種、合計20種類が必須元素である。

最近の研究で、次の6種類も必要と考えられてきています。弗素、珪素、バナジウム、砒素、錫です。この中で、亜鉛に注目して、参考図書でその働きを見てみました。

アルコール性肝硬変患者で亜鉛欠乏が高率に発生する。小児の難病、腸性端皮膚炎が先天的亜鉛不足で発生する。静脈からの輸液で栄養補給している患者に、皮膚炎を起こす事の原因に亜鉛欠乏である事が判った。今話題の味覚障害が、一般に知られています。

又、性機能障害は、亜鉛と共にセレンの不足が原因である。その他に、300を超える亜鉛酵素が見つかり、生体反応に大きく関与しています。のみならず、DNA、RNAなどの遺伝子の構造中にも含まれ、重要な物質である。

一方、畑や田んぼからは、ミネラル分が少なくなり(化学肥料の影響)成人一日当たり必要な量15mgが食物から摂取出来なくなっている。(およそ9mgの統計)栄養学的問題としてクローズアップされている。

食物100gに含まれる亜鉛の量の例、牡蠣40mg、ココア7.0mg、抹茶6.3mg、松の実6.0mg、胡麻7.1mg、干し海苔5.0mg、ナッツ類5.0mg等

若者の凶悪犯罪が多く目立つこの頃です。将来に対する憂いはつのるばかりです。いかなる事なのだろうか、根性がないでは済まされない事である。脳神経伝達に必要なビタミンB群の摂取不足。砂糖の取りすぎによる、攻撃的なホルモンのアドレナリンの多量の残留。ジャンクフードだけの食事による栄養の偏り。食の崩壊により、人の心までぼろぼろに崩壊しているようである。

世界一情緒の安定している、と言われた大和民族は、何処へ行つたのだろうか！日本の食文化が見直されています。米、味噌汁、お新香で培って来た日本の食卓を思い出そう。

魚 類 コレステロールの少ない蛋白質、DHAは頭脳を明晰にする。

海藻類 カロリー無でミネラル類が豊富。

野菜類 ビタミン類、食物繊維が豊富。

人 豆 ポリフェノール豊富

漬 物 善玉腸内細菌を増やす。等

参考図書 その食事では悪くなる 大沢博著 三五館

からだミネラルの知識 木村修一、安倍文敏、榎本秀一共著 オーム社出版局

亜鉛パワーの秘密 富田寛宙(おおぞら)出版

こんなもんか？

小島一浩（足立支部）



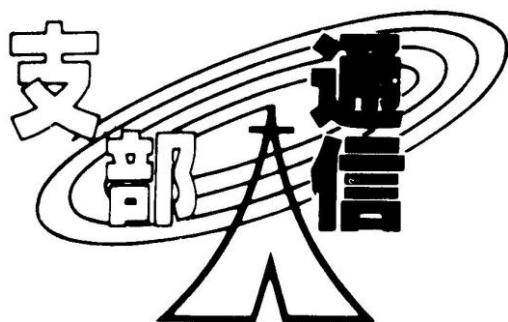
昨年8月に火星が地球に大接近するということで大騒ぎになったことは、皆さんもまだ記憶に残っていることでしょう。まあ、大騒ぎになった一番の原因はマスコミの過熱報道によるところがありましたが・・・。

ところで、読者の皆さんの中には天体望遠鏡で火星を見た方はいらっしゃるのでしょうか？天体望遠鏡で星を見るという機会はなかなかないと思いますが、実際に火星を見ても「な〜んだあ、こんなもんか？」と思われた方がほとんどだと思います。

実は、筆者の趣味の一つに天体観測があり、工場兼自宅の屋上に天体望遠鏡を据え付けてあるので、時々近所の子供達や大人も星を見に来るのですが、当然今回の接近した火星も見に来ました。彼らはわくわくしながら望遠鏡を覗き込みましたが、見た瞬間に「ちっちゃいね」とか、「こんなもんなの？」とか、「おもしろくないね」といった言葉が出てきました。そうなんです、いくら大接近といっても初めて火星を見る人にはあまりおもしろくない天体なのです。もう一つは、彼らが初めて天体望遠鏡で見た対象は月と土星という、非常に興味深い天体だったということもあるでしょう。月には無数のクレーターが見え、土星には神秘的な輪が見えるのに、それに比べて火星には一目で興味を引くものが見えないのです。

ラジオのニュースで聞いた話ですが、ある小学校で大接近した火星を天体望遠鏡で見ようという企画に児童と保護者あわせて約500人も集まったそうです。それに対して、用意された望遠鏡はたったの2台、一人ずつ望遠鏡を覗くのですから順番を待つ列の後ろの人たちは2時間以上も待たされたそうです。そして、やっと順番が回ってきて一言、「な〜んだあ、こんなもんか」だったそうです。

皆さん、今回の火星大接近に限らず、今後の天文現象に対し過度の期待はなさらない方がよろしいかと思います。天文現象は圧倒的に期待はずれの方が多いですから・・・。



■城南支部

忘年会

城南支部(中澤敏明支部長)は12月22日(月)午後6時から目黒区東山のKKRニュー目黒ホテルで忘年会を開催した。

若山満事業部長の司会により、中澤支部長は「今年1年よく頑張ってきたと思う。来年景気はどうか分からないが、希望をもって向上することを期待して、今日は楽しく過ごして頂きたい。今年残念なことは組合員の方がやめられて、減少のない目黒区を除いて港区の組合員はゼ

ロ、渋谷区は私だけ、世田谷区も減っており、寂しい限りだが、なんとか来年も頑張っていきたい」と開会の挨拶をした。

大村功作理事長が挨拶し、環境問題としてハウ素、フッ素等の暫定基準が6月末で期限切れになり、組合はその延長を運動している。またハウ素、フッ素の規制値が海と川では大きく違うことが納得できない、下水道法は環境省の基準をそのまま適用しているが、これを切り離すよう運動していること、その他土壤汚染問題、めっきセンターの修繕計画、公防協組の運営など組合本部の活動状況を説明した。

木村秀利常任理事は「今年1年大変厳しい経済環境をなんとか乗り越えてきたが、いつの時代も厳しく同じことの繰り返しであるが、その日その日を過ごせればよいと思っているのが一番ではないか」と述べて、乾杯音頭をとった。

I S O認証取得などについて意見交換を行うなど、なごやかな歓談が続いたあと、伏原暉幸副支部長の中締めにより忘年会を終了した。



■足立支部

顧問、相談役、部長と 現役員との懇談会



足立支部(永田一雄支部長)は12月18日、西新井大師門前「武蔵屋」で顧問、相談役、部長、現役員との懇談会を開催した。

細井碧副支部長の司会進行により、永田支部長は「本年も年末を迎え忙しい中、参加いただき感謝申し上げます。支部長就任以来、今日まで脱会者もなく、大事

にも至らず運営できたのも、皆様のご協力の賜物であります。あらためて御礼申し上げます。来年の初頭より新年会等皆様のご協力を祈念してご挨拶と致します」との挨拶があった。

顧問を代表して永田吉輝氏より挨拶があった。その後、来年の各新年会の人選を協議した。乾杯を小澤栄男常任理事が行い、懇談に移った。和やかの中、出席者全員より今年の出来事、来年の抱負などコメントを頂いた。宴たけなわではあったが中締めを石川操第7ブロック部長が行い閉会した。

忘年会

足立支部(永田一雄支部長)、足立鍍友会(高橋利男会長)は12月20日(土)午後7時より15名が出席し、銀座アスター千住賓館において忘年会(写真下)を行った。

冒頭高橋会長から「年末の忙しい中、また今日はとても寒い日であるが、大勢



の人に参加していただき感謝する。私事ではあるが、今年はこの不景気でいい年ではなかった。我社の得意先の社長の話でも、高い物が売れなくなった、もう少し高価な物が売れないと・・・という話であった。しかし、今日は忘年会ということで、みんなで楽しく過ごしたい。また、今年は新会員4名の入会、さらに来年度はもう1名入会してくれるので、足立鍍友会としては明るいことである」との挨拶があった。続いて永田支部長より「この厳しい時代、挨拶も湿っぽくなってしまいがちで、明るい話がない。ここ数年、毎年忘年会に出て、今年は良かったと言った覚えがない。皆それぞれ従業員、女房・子供を養っていくのが大変だが、悲観的にならずに今出来ることを考えよう、いずれ落ち着くであろうから物事を楽観視することも必要だ」と挨拶した。続いて小澤栄男常任理事が「暗い事を考えずにみんなで明るく乾杯しよう」と乾杯の音頭をとり、例年通りに楽しく忘年会が始まった。宴会中は皆それぞれ仕事の事は忘れ、趣味の話などで盛り上

がり、楽しいひとときを過ごした。最後に磯村博明足立支部総務が「皆さん、来年も元気で会いましょう」と締めて閉会した。(小島一浩)

■城北青年部会

ゴルフコンペ

去る12月14日、我々城北青年部会(田中貴嗣会長)は、茨城県の阿見GCでゴルフコンペ(写真下)を行った。このJJ会(城北ジュニア)は、1975年4月3日に第1回コンペを7人でスタートして、今回で第142回目をむかえた。28年間の歴史のある会である。『継続は力成り』と言うように歩んで来た。この不況のなか、参加者は年々寂しくなったが、存続していく為に、今その門を広げ人数確保をして、これからも頑張っていきたいと思っている。ちなみに成績のほうは、優勝・今泉、2位・大和田、3位・田中でした。今回は参加者11人で、地元の日暮里で楽しい宴を行った。(文・田中貴嗣)



東京都産業労働局産業政策部は毎月都内中小企業の景況調査を行っているが、12月調査票の自由意見欄を分類発表した。景況に関して次のような意見がある。

○大手セットメーカーは9月中間決算では大幅な増収増益となっているところが多く、景気は回復基調にあると報道されている。しかし、中小企業は、前年並みの売上高をなかなか確保できないところが多いのではなかろうか。これでは、大企業のみ栄えて中小が減ぶことになりかねない。(工業用プラスチック製造業)

○デフレ傾向が続き大手(上場)の景気回復が新聞に出ているが小規模会社とは違う次元の話。大手はリストラにより人を減らして増益だが、小さい所は人員ギリギリ、リストラ不可。本業の収益が上がるよう経済が上向かなければダメ。(事務用機械器具卸売業)

○大企業は増収増益と新聞紙上で書かれているが我々の零細企業ではまったく関係なく益々悪くなるばかり。(婦人・子供服卸売業)

○携帯電話、ハンディムービー、デジカメの新製品関連部品受注で来年2月頃までの仕事量は繁忙となる見通し。リピート部品は低調。新規開発した最終製品の今後の受注が明暗の分かれ道。(金属プレス製造業)

○経営の2本柱の1つの精密機械加工は昨年同期の2倍に売上増。コストはきつい。他のナノテク関連は取引情報が先行にて売上増ならず。来期は自動車及び半導体関連に期待している。(電子計測器製造業)

編集後記

この正月は穏やかな日和が続き、各地で初詣が賑っていた。今年の初詣の服装ではパステルカラーが目立ち、この色の時は景気が良くなるというニュースがあったが、ぜひそうなってほしいところである。最近、色について興味深い統計が発表された。海外のニュージーランドの大学が重大交通事故の車体色を調査したもので、最も多い白色を重大事故に遭う確率を1とした場合、銀色が最も低く0.4、次いで灰色の0.6、赤0.7、黄0.8、青0.9、反対に事故率が高い方では茶2.1、黒2.0、緑1.8となっているという。要は目立たない色の車の事故率が高いようだが、これを見て自分の車の色が気になった人もいたのではないかな。

今年も沢山の年賀状を頂いて、いまは年賀状だけのお付き合いの方が元気であることが分かったり、いろいろ近況を書いて頂いて興味をもって拝見している。

中には子供だけの写真を載せたものがあり、兄弟や親戚の方なら大いに興味があるだろうが、一度も会ったことがない第三者にとってはとまどいを覚えることがある。もらった人がどう思うか、そこまで気配りをするとは年賀状を書くことが大変な作業になるかもしれない。

広報1月号

印刷 平成16年1月15日

発行 平成16年1月15日

(毎月1回20日発行 第37巻第1号)

発行所 東京都鍍金工業組合

〒113- 東京鍍金公害防止協同組合

0034 東京都文京区湯島1-11-10

Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166

発行責任者 大村 功作

編集責任者 木村 秀利

印刷 スザキ企画 Tel047(338)1222

〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4

定価 500円

ウォーキングで血液サラサラ・ストレス発散！

いちばん身近で安全な運動、ウォーキングで日頃からの健康づくりをはじめてみませんか。ゆったりと根気よく、マイペースに生活の一部として行うことで、体力の増進や生活習慣病の予防など、健康な生活に深く結びつくさまざまな効果が期待できます。

★★ウォーキングの効果★★

- ①. 肥満解消…基礎代謝を高めてエネルギーを消費することで、肥満を解消。
- ②. 血液サラサラ…血液をサラサラにする善玉コレステロールは毎日歩く人ほど多いことがわかっています。
- ③. ストレス発散…適度な運動は自律神経のバランスをよくし、ストレスをため込まず上手に発散することができます。
- ④. 筋力アップ…複数の筋肉が使われることで、全身が引きしまり、心身の活動が活発になり、心も体も元気になります。
- ⑤. 食欲増進…食欲増進効果があり、何でも良く食べ、元気に活動することで、エネルギーの消費効力もよくなります。
- ⑥. 内臓機能アップ…全身運動が、心臓や肺の動きを活発にし、全身の内臓の機能も強化されます。
- ⑦. 免疫力アップ…会話しながら出来る程度の運動が、体内に侵入した病原菌を退治する細菌の活動を活発にします。
- ⑧. 生活習慣病予防…有酸素運動を継続して行うことで、血液中の脂肪量や血圧などが調整され、生活習慣病にかかりにくくなります。



生活習慣病予防・改善の必要がある人が運動を始めるには、ご自身が安全で楽しくできる身体状況であるか知っておくことが大切です。年に1回は健康診断を受けてチェックし、場合によっては強度を下げたり、中止する勇気も大切です。

健康保険組合では、年に1回春にホリデーウォーキングを開催しています。ウォーキングに参加して歩くきっかけをつくってみてはいかがでしょうか。

春のウォーキングにつきましては、機関紙「めっきけんぽ」3月号で詳しくお知らせする予定でおります。